

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念とは別に事業所の理念を全職員で考え提示している。「共に寄り添い心地よい生活をしていただけるよう努めます」寄り添いについて職員一人一人からアンケートを実施し理念について振り返りを行っている。また、事業所理念を作成時の職員が少なく、現在新しい理念を職員全員で作成する準備及び話し合いをしている。	法人理念を踏まえ、地域密着型サービスの事業所理念を玄関正面等に掲示している。共有スペースの掲示版には、職員一人ひとりの話し合った時の理念が示され、利用者の目に留まり読まれている姿もある。今年度は、新しい理念を職員全員で作成するため、今までの理念の振り返りを行いながら、利用者に関わる際の、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや町内の敬老会に参加し地域の人との交流を増やしていたがコロナウイルスの流行のため現在は参加できていない。散歩などに行くと近所の方からは「コロナが終わったらまた行くよ」など声をかけてもらうことも多くなっている。	滝谷地域の町内会に加入し、駐車場で夏祭りや地域住民との交流は行われていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止のため、直接の交流は行われていない。今後は、社会状況を考慮しながら地域交流を少しずつ進めていけるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域全体に話す機会はないがコロナウイルスの流行の前は地域の行事などに参加し認知症について理解していただいていた。運営推進会議実施後、会議内容を町内会長にも報告し地域の方にも理解していただけるようにしている。コロナウイルスの流行の前は中学生の職場体験も受け入れていたがプレゼント訪問だけになっている。専門学校の実習生は状況を見て受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設している小規模多機能と合同で開催していたがコロナウイルスの流行のため開催を中止しているが報告だけは行いいけんうかがっている。防災訓練にも参加していただいていたが参加できない状態であるがコロナウイルスの流行が落ち着いたら参加してもらうように働きかける。	運営推進会議は併設の小規模多機能事業所と合同で開催されていたが、現在は会議メンバーへ報告し意見等は収集する形になっている。今後、社会状況をみて会議を開催する方向に考えている。その際は、利用者にも参加してもらうことで、より良いサービス向上に活かせるよう心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターの勉強会や事例検討会の参加している。地域包括センターの職員協力の元虐待研修なども行っている。運営推進会議のメンバーになっていただき意見などもいただいたりグループホームでの認知症の症状についての取り組みや悩みなどを伝えている。	日頃から、市、地域包括支援センターとは連携が取れており、相談対応にも積極的である。積極的に市や地域包括支援センターが実施する事例検討会や虐待防止の研修会にも参加し連携を深めている。またコロナ禍以前は、地元「グループホームの会」があり地域の情報を共有しながら研修を積み重ね、ケアサービスの向上に取り組んでいた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠に関しては、家族の要望もあり行っているが、1日に1回利用者が玄関掃除を行う際など開錠している。また、今回離設された利用者がいたため、3週間ほど居室の窓に施錠させてもらったが、その後解除している。	事業所内において年間の研修計画があり、年2回管理者を中心に虐待の研修とともに行われている。現在、転倒防止のためセンサーマットや鈴を使用しているが、職員が見守りを行いながら定期的な見直しが行われている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について外部研修で学んだことを内部研修で伝え、全職員で共通理解するようにしている。日々の朝礼時や申し送り等でも気になることなどは話をし、会議などでも話し合いをしている。職員のストレスが虐待につながるよう全職員で虐待について学び理解するように努めている	各マニュアルが整備され、「高齢者虐待防止関連法」についてを学んでおり職員は理解している。不適切な言葉かけは、その場で気付くよう注意し対応している。入浴を嫌がる利用者への対応については、無理強いしない事と本人の気持ちに寄り添ったケアを継続していく共通認識を持っており、職員間の疲労やストレスにならないよう対応に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や内部研修を行い、日常生活自立支援や権利擁護などを学ぶようにしている。特に自立支援に関しては、日々職員間で話をし過剰介護にならないように気を付けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、専門用語を使用せず説明をし、家族の不安や疑問を理解しながら説明させてもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	以前は、家族参加の行事などの時にアンケートなどを取り、意見や要望を取り入れたが、コロナ化で家族参加の行事が出来ないので面会などの際 話を聞くようにしている。その後会議などで情報共有をし改善点などがある場合は検討している。	利用者からは日常の関わりの中で、意見や要望を聞くようにしている。聞いたことは記録に残し、連絡ノートで共有するようにしている。現在、家族からは面会時や電話の際に聞く機会を設けている。今回の外部評価の家族アンケート調査を参考に、運営に関して再確認しサービス向上に活かそうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を実施し、2か月毎に定例会議を実施している。職員の意見が言いやすいように一人一人の意見や思いを聞き話し合うことで業務改善に生かしている。	事前に、職員会議で話し合う議題を提案してもらい、その中で優先順位をつけ職員間で検討を行っている。シフト調整と業務の変更等は「まずはやってみよう」の心構えで取り入れ、利用者の生活に合わせた運営が行われている。また、会議では全職員が発言なく終わることがないように調整に配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金の活用や有給休暇使用の環境を整えている。資格取得や勤務状況に応じて、やりがいを持って働けるように給料アップなども考えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月担当の職員に内部研修を実施してもらい、職員同士が話しやすい環境づくりをすることで一人一人の自信につながるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の運営推進会議に参加するなどして情報交換を行いながらサービス向上に生かせるようにしている。また、秋葉区のグループホームの買いがあるが、コロナ化で中止しているが鎮静し再開したら情報交換を行いたい		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に、利用者との面談や見学などを行いながら、情報収集や事前にかかわりを持つようにしている。その際に利用者や家族からの要望や意見を聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者の思いや家族の悩み、要望などをお聞きし、要項な関係作りができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前のサービス事業所からの情報やご家族の思い、ご利用者の希望などを話し合いご利用者に必要な支援ができるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と職員が共に寄り添いながらお互いに居応力して暖かい関係を築くようにしている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	サービス担当者会議には、家族と一緒に実施しご利用者やご家族の思いなどを大切にしながら話し合いをしている。面会時に時間を制限せず来られるときには日常の様子を伝えホームでの様子の共有できるようにしている。ご家族からの要望や思いも聞きながらご利用者の支援をしている。コロナ化で面会は、窓越しで行っている	6ヶ月毎の介護計画見直し時には、利用者・居室担当・管理者・家族が出席し、本人のこれからの支援についての確認を継続している。季節の衣替えの支援や窓越しの面会を通して、本人と家族の関係を大切に支援している。また、年4回の「たきやだより」は、利用者の日常の暮らしぶりや行事の様子を写真に納め家族へ伝えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所へのドライブや買い物などに行き思いつきなどして馴染みの関係を保てるよう努めている。最近、コロナ化の為に友人たちも面会を遠慮されているも今後は面会できるようにしていきたい。	事業所では面会場所の工夫を行い親族の面会を継続実施している。また、気分転換にドライブに出かけるなど、思い出の場所や利用者の友人の話が聞かれる事が多い。今後も、本人にとって大事な馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の様子を把握し関係が上手くいくように席を配慮している。職員が間に入りながらコミュニケーションの橋渡しを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や当には、その後の相談やフォローができるように努めている。契約が終了しても行事等でお言葉をお掛けし、気軽に来ていただけるように配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者にあった寄り添いを常に意識するようにし日々の生活でご利用者の希望や以降の把握に努めている。家族からも情報を聞き取り尼僧世にしている。困難な場合は、生活歴やホームでの日々の暮らしの関わりから把握できるよう努める。	管理者は入居前に自宅に訪問し、本人、家族と面談しながら本人の思いや意向を汲み取り、その人らしい暮らしができるよう支援している。日々の関わりの中で挨拶を始めとして会話することを大切に捉え、寄り添うケアを意識している。知り得た情報は全職員で共有に努めている。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に自宅や利用中の施設を訪れ、生活環境が変わっても以前生活してきた馴染みの暮らしができるよう情報収集をしている。サービス利用の経過等伝えることで全職員が把握するように努める。	入居前には自宅訪問を行っており、今までの暮らしぶりの様子を把握しようとしている。また、入居後の生活で新しい情報を得た場合には情報を職員間で共有し、サービスに繋げている。生活環境が変わっても安心して暮らして行けるよう支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌や一人一人の経過記録を確認し申し送り状態で状態を把握している。ご利用者専用の申し送りノートを活用し職員が情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者の思い、ご家族の意向を担当職員が作成したものを計画作成者が確認している。必要に応じて職員同士で話し合い、3か月に1回ご家族にも意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。	毎月、職員によるモニタリングが行われ、利用者に変化があった場合には担当者会議を開催している。また、必ず、3ヶ月に1回は家族へ電話にて意向確認や意見を聞き現状に即した介護計画を作成している。プラン内容については、1日1回実施した内容を記録に残している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化などをここに記録し送りノートなどでも情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	それぞれに合ったサービスを提供していく為ご利用者の様子やご家族からの情報を生かして支援するようにしている。心療内科、歯科往診なども取り入れ、御家族の状況に合わせたたいおうをしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加し交流を持つようになっている。ホームの行事にも近隣の人が参加し一緒に行事を楽しむことができるように支援している。ただ現在コロナウイルスの流行の為地域の行事やホームでの行事に参加できていない状態であるが、散歩などで近隣の人に会うと「コロナが収まったらまた参加してね。私たちも参加するから」など声をかけてもらっている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続する人やホームに往診可能な主治医に希望する人など状況に応じて対応している。受診の付き添いはご家族井お願いしているが状況によっては職員が支援することもある。	入所前からのかかりつけ医を希望される方や受診の付き添いが可能な利用者には、家族にお願いするなど、利用者に合わせて対応を行っている。事業所への往診に医師が月に1回～2回来ており、看護師は週に1回は訪問に来ている。24時間体制で対応してくれる看護師と医師がいるため、職員も利用者も安心して生活を送れている。些細なことでも併設している小規模多機能事業所の看護師に相談できる関係性もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護が入っているため、その際に相談をしているが、職員が判断に迷った時や不安な時は、訪問看護に連絡をして指示を仰いだり主治医に連絡している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関へ行き情報交換を行っている。退院後も安定した生活が送れるように、医療機関といつでも相談できるような関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨年11月から見取り介護を行うことにし、入所されているご本人・家族に確認を取りホームでの看取りを希望される方にはできるように支援している。看取りを希望されない方に対してその都度話し合いを行いご家族の思いや希望を汲み取るようにして支援している。	令和4年11月より看取り介護加算が追加となり、12月には隣接しているクリニックの協力医より職員へ看取りについての講習が行われた。医師の協力の下、看取りを希望する利用者の家族へは直接説明し、意向確認を行ってくれている。看護師、医師の協力体制が整っているため、職員は安心して看取り介護に取り組んでいる。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の内部研修を実施し急変時や事故発生時に備え対応の訓練を行っている。職員会議でも職員の意見を取り入れて急変時に対応できるようその都度話し合っ対応できるようにしている。	急変時のマニュアルは、事業所内のキッチンのところに設置しており、いつでも職員が確認できるようになっている。また、急変時対応の訓練においても、令和4年度よりは事故発生時、特に転倒・骨折の時の対応について、管理者が救急隊と仮定し、内線を使いながら119番への流れを訓練実施している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所と合同で防災設備の職員指導の下昼夜想定訓練を実施していたが、コロナウイルスの流行のため、利用者参加の訓練は行っていないが、職員が利用者として扮した訓練や避難経路の確認を行っている。	コロナ禍前は、併設している施設と合同で災害時の訓練が行われていた。その際には、運営推進員のメンバーにも火災訓練に参加してもらったり、利用者も参加していた。消火訓練は1年に1回必ず行っている。併設の施設の職員とともに、災害時の避難経路の確認は共有確認をしており、緊急時には連携が図れる体制が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士の申し送りや排泄時の伝達には名前をイニシャルにするなどプライバシーを配慮している。ご利用者一人一人を尊重した言葉遣いを心がけており誇りやプライバシーを損ねないようにしている。	朝の申し送りの時など、近くに利用者がある時は名前をイニシャルで呼ぶようにしており、利用者のプライバシーには配慮に努めている。また、排泄時の声かけは大きな声にならないように、なるべく耳元で声をかけるように注意している。「言葉使い」が気になる職員には、管理者より指摘し、利用者の尊厳が保持されるよう対応に注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや希望を出しやすいよう職員からコミュニケーションをとり自己決定が出来るように確認しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の観察でご利用者のペースを把握し希望に沿って一人ひとりに柔軟に対応できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者が着たい服を選ぶことや希望に沿って用意するときに手伝うこともある。その人らしいオシャレができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雑誌や新聞の広告を見ながら食べたいものを伺うなど職員と一緒にきめながら手作りケーキごはんやおやつを決めている。季節を感じてもらえるようにどのような調理をすればいいかコミュニケーションをとり職員と一緒に食事の準備や片付けなどをしてい	食事は基本的には給食が配送されてくるが、定期的に昼食会が行われ、利用者とテレビや新聞、広告などを見ながら献立を一緒に考え、一緒に調理している。コロナ禍でも感染対策をしながらも継続されており、手作りのおやつを作ったり、なるべく季節を感じてもらえるような物を作ったりして、食事を楽しんでもらう工夫がなされている。洗い物や片付け、食事の盛り付けなどが可能な利用者には、三角巾と割烹着を着用してもらい手伝ってもらうなど、自身の力を発揮してもらっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を記録しご利用者の状態を把握している。水分を充分に取れない方には、ゼリーや甘酒などで取ってもらえるようにその時の状態に合わせている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人に合わせた言葉掛けや口腔ケアをしている。場合によっては職員が支援し食事以外の時間にも口腔ケアをしていただけるよう工夫をしている。希望者のみではあるが、定期検診を行いそれぞれの口腔ケアについて歯科医から助言を頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日誌やチェック表を見ながらトイレ誘導をし一人一人の排泄ペース、パターンを把握している。言葉をかけることによってトイレで排泄できるように心掛け誘導を行うように努めている。	24時間チェック表に排泄のチェックがされており、排便コントロールのための下剤の調節も職員が行っている。利用者の排泄パターンを把握し一人ひとりに合わせトイレの声かけを行うことにより、オムツではなくトイレで排泄できるよう支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の便の様子をチェック表にし服薬の調整や水分補給なども行っている。体を動かしてホーム内を歩行することや繊維のある食べ物や水分補給で便秘予防をしているが困難時にはかかりつけ医に相談をして薬の調整をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご利用者の希望や状況によって入りたくないときなどは日にちや時間を変更している。一人一人に合わせた会話を楽しみながら支援している。入浴剤や音楽を流すことで気持ちよく入浴できるように支援している。	お風呂が嫌いな利用者には、音楽を掛けたりゆず湯などの季節に合わせた入浴剤を使用したりして、快適に入浴してもらえるよう工夫している。入浴を拒否する方には、絶対に無理強いせず、毎日声かけ行いながら、本人が入りたいと思う日に入ってもらい、それ以外の日は清拭などで対応している。日にちや時間、曜日に囚われず、本人の思いを尊重している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	申し送りや記録でご利用者の日中、夜間などの様子を把握し、その人に合ったペースで休息、安心して眠れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋をこのファイルに綴じ、急な対応でも確認できるようにしている。変更時には、申し送りなどで職員全員が把握できるように努めます。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで出来たことを変わらずできるようにホームにいても日々の生活で散歩や買い物に出かけ役割をもってやり喜んでいただけるよう支援している。がいに繋がるよう支援している。希望の外出なども取り入れ気分転換を図るようにし		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の希望に合わせ、ご家族の協力もいただきながら一人一人の外出を支援している、季節に合わせた外出することで春夏秋冬を感じ、ご利用者と職員がともに楽しめるよう行事などを計画している。	コロナ禍で買い物などの外出は中々できないが、天気が良い日に可能であれば毎日、施設周辺を散歩している利用者もおられる。お花を見に行く計画を立て、ドライブに行かれたり、家族の協力で個々にドライブへ行くこともある。外出が制限されている中でも利用者の希望を叶えられるよう職員で話し合いが行われており、利用者も職員も楽しめるような計画を立てている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者一人一人の能力を理解し事業所で管理している。必要時にはご家族と相談し支援している。またお金が手元にないと不安な方には、家族と相談をして無くなっても良い金額を後利用者様に持ってもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者やご家族からの希望で取次は自由になっている。その時の様子を把握しながらご利用者の思いを大切に、いつでも電話ができるように努めます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から明かりを取っており日差しの強い時には手作りの日よけカーテンで空調を調整している。ご利用者と相談し季節を感じてもらえるような装飾や草花なども取り入れ居心地の良い空間で過ごせるように配慮している。	物干し場があり、そこから外に出て利用者が居室の窓際のグリーンカーテンやプランターの水やりをしたり、草むしりを行ったりできるようになっている。フロアには、職員と利用者が共同で作った季節を感じられる作品などが飾られており、アットホームな環境で居心地の良い空間作りが行われている。	壁のシミが少し目立っていたり、脱衣場の高いところに洗剤などが多く置かれていたりするため、安全性に考慮した整理整頓・環境整備が求められるところである。今後は利用者目線での配慮と気配り、快適な共有空間づくりが期待される。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日々の様子を見ながら好きな場所で居心地よく過ごせるようソファを用意している。ご利用者同士気の合う方とお話ができるように席なども配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者とご家族と相談して使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいただきその方に必要なものを自由に飾っていただいている。ホームでも居心地よく過ごしていただけるように配慮している。	居室内には特に不可するものはなく何でも持参することができることを伝え、利用者が使い慣れたものを家族と相談し馴染みのものとして持参してもらっている。広すぎない居室空間で利用者のペースで自由に過ごしてもらっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者一人一人の状態に合わせ安全面を配慮しながら押し車の置き場所や家具などを設置している。必要に応じて滑り止めマットも使用している。		